

表彰式

最優秀賞

木津川と里山を活かしたまちづくり
竹蛇籠の編上げと設置とオオムラサキの産卵の発見
NPO法人 やましる里山の会



優秀賞

誇りをもって、楽しく、生き生きとくらせるまち 猪名寺
猪名寺自治会



第11回関西元気な地域づくり発表会

最優秀賞 表彰団体

NPO法人やましろ里山の会

木津川と里山を活かしたまちづくり 竹蛇籠の編上げと設置とオオムラサキの産卵の発見

活動内容

1. 活動方針・目的

自然を大切に作る仲間の輪を大きくする。

2. 活動内容

市民団体と協力して木津川に竹蛇籠の設置を行った。

里山農園に教育棟を建設し、国蝶オオムラサキの観察を行い、産卵を撮影できた。

3. 他の活動団体の参考となる事例

- 1) 木津川での魚とりや植物調査の中で河床低下問題に気付き水質調査の継続5年目を実施、一回100人以上の参加を得る親子魚とり「木津川で親子で遊ぼう学ぼう魚とり」を実施した。

木津川の材料で古来工法による竹蛇籠を作り水生生物や魚などの住みかづくりを目指して設置した。河川に異物の設置は認められないので、木津川に生育する真竹を活用し、玉石は木津川の河川敷で拾い集めた石を使用し、主材料は外部から持ち込まないで自然にやさしい従来工法を用いることで木津川出張所の許可を得た。

- 2) 里山農園は7年前まで放棄されていた農地を開墾し、田圃を復旧させた。炭焼き体験や米づくり体験、昆虫や植物観察を実施する中で国蝶オオムラサキの発見、カシミサンショウウオの卵囊の発見を行い、自然のすばらしさを再認識した。40年ぶりに笹竹を切り開いた斜面ではササユリが開花し、年ごとに花数が増え2015年6月にはなんと5輪が開花した。7月のオオムラサキの観察会では夕方4時過ぎの20分間で二匹の成虫の産卵を撮影できた。里山は人の手が加えられることによって自然が自ら復元、再生していくことを伝えたい。

4. 今後の課題等

竹蛇籠の設置は10月中旬であったが、一週間後の生物調査では車エビや小魚が見つかった。今後は眺めるだけの遠い存在から川から容易に近づけるよう通路を切り開き、砂州を歩き、川を身近に感じて、直接、本流に接する竹蛇籠の周囲で魚など生育を観察できるようにしたい。併せて監視体制や安全体制を確立させ、川に学ぶ場として充実させたい。

教育棟の年間活用と観察棟を使ったオオムラサキの生育調査を子どもたちの手によって実施してほしい。

最優秀賞



表彰式の様子



分科会発表の様子



ポスターセッションの様子

木津川に竹蛇籠の設置で魚の住みかを増やそう4



オオムラサキの産卵
2015.7.20 14:46 JPN No.19
京都府木津川

春の七草摘み(秋の七草観察・オスキナクハ)



<総評>アドバイザー・コメンテーター 阪南大学准教授 森重 昌之氏

今回は、木津川に竹蛇籠を設置して魚を増やす取り組みとオオムラサキの観察など、2015年度に行われた活動を中心に発表していただきましたが、NPO法人やましろ里山の会は20年にわたって活動を継続されています。しかも、多岐にわたるイベントを継続して取り組まれている点、メンバーの高齢化が進む中で、大学をはじめとする他機関と連携して活動を展開されている点は、評価に値します。また、現場で活動を実施するだけでなく、その成果を発表することにも力を入れておられます。成果を発表などの「形」として残す場合、現場での活動とは異なる労力が求められますが、そのことが活動継続の原動力にもなります。すでにいくつかの機関から表彰なども受けておられますが、NPO法人やましろ里山の会の活動はまさに「元気な地域づくり」の好例であり、他団体が学ぶべき点も多いと考え、最優秀賞として選定しました。

第11回関西元気な地域づくり発表会

優秀賞 表彰団体

猪名寺自治会

誇りをもって、楽しく、生き生きとくらせるまち 猪名寺

活動内容

1. 活動方針・目的

- 園田北地域を「誇りをもって、楽しく、生き生きとくらせるまち」にすること。
- そのためのもちづくりの目標は—①明るくきれいで住みよいまち ②助けあい、支え合いのまち ③にぎわいと潤いのまち ④自然と歴史が織り成すまち を実現すること。

2. 活動内容

- ①バリアフリーのまちづくり、住環境改善（住民要望の解決）、公園花壇の設置と腐葉土のリサイクル、毎月地域一斉クリーン運動など。
- ②防災・避難訓練、高齢者・子ども見守り活動、健康学習・健康体操（ずっと健康プロジェクト）、認知症予防体操
- ③盆踊り・地域ふれあいもちつき大会、都市と農村交流（軽トラ市、バスツアー、収穫体験など）
- ④万葉の森・佐璞丘再生事業（ゴミ拾い、外来種の伐採等）、万葉コンサート、万葉の里・猪名寺忍者学校、歴史パネルの設置、猪名寺散策マップの作成、万葉の里ツアー等。

3. 他の活動団体の参考となる事例

- ①まちづくりの目標や事業内容・計画などは、地域の現状や課題、特徴、また住民意識、住民ニーズ（アンケート調査）等、調査、分析して設定している（猪名寺まちづくりステップ計画）住民のニーズや地域課題は多様で、まちづくりの目標と活動は多様性が必要である。但し、活動の重点や順序、また、いつまでに達成するか、などの計画が大切となる。
- ②地域課題は、地域団体、企業、学校等が協働して解決している。佐璞丘再生事業、コミュニティの活性化（盆踊り、もちつき大会、石見神楽祭等）、猪名寺忍者学校など。はじめは各団体バラバラであった。駅にエレベーターを設置するための活動が契機となった。それ以降、コミュニティ行事、佐璞丘再生事業など、協働するようになった。そのことで各団体が元気、活発になるなど、相乗効果がでてきた。各団体のキーマンとの信頼関係の構築がカギとなった。些細な争い事、人間関係から信頼が崩れ、協働が困難になったことがある。対立はWin、Winで解決。また活動量が多くなり、これ以上活動を増やさないで、との意見もあった。結果、協働、役割分担で解決した。
- ③小さい地域課題を解決することの積み重ねたことによって、地域が元気になり、より大きな地域課題を解決できるようになり、まちづくりの目標も達成できる。猫が糞をして困っている。××工業がゴミを燃やすので、洗濯物が汚れて困る。家の前の舗装が劣化している。線路沿いに雑草が生えて蚊がすごい。建物解体で振動・粉塵がすごい等、これらは一例で、100近い地域課題を解決してきた。こうした活動によって、地域住民の信頼と協力を得て、大きな地域課題も解決できるようになった。

4. 今後の課題等

- ①地域の協働から地域ガバナンスの構築へ、地域自治の確立
- ②自治会が地域課題解決のためにNPO法人を立ち上げることが必要か
- ③少子高齢化社会を地域でどのように乗り切っていくのか
- ④役員世代交代、後継者の育成

優秀賞



表彰式の様子



分科会発表の様子



ポスターセッションの様子



<総 評>アドバイザー・コメンテーター 阪南大学准教授 森重 昌之氏

自治会組織は全国に数多くありますが、そのほとんどは毎年行われている行事を継続することに力が注がれています。しかし、猪名寺自治会は自主的に「猪名寺まちづくりステップ計画」というビジョンを策定され、2009年度からそのビジョンの実現をめざし、計画的に活動を展開されている点を最も評価しました。このビジョンの中で、4つのまちづくりの目標を設定するとともに、地域内で行われるさまざまな活動をこれらのまちづくりの目標と結びつけています。これによって、何のために活動を行っているのか、何を達成できたのかといったことを、住民にわかりやすく示しています。会長の強いリーダーシップで進められているため、今後どのように活動を継続していくのかという課題はありますが、住民の要望を調査し、地域の課題解決に向けて活動を展開している点は、元気な地域づくりに向けた理想的な自治会活動といえます。

【横山先生】

みなさんお疲れ様でした。

私の担当させて頂きました第2分科会なんですけれども、今までの10回の発表会と比べて本当に多様で、レベルの高い発表だったので、採点される方々も本当に苦労されたのではないかと思っています。

分科会の最後に皆さんの活動を広く知ってもらうために必要なことというのを発表者の方に、かなり色々お訪ねしたんですけれども、積極的に、やっぱり色々な所に出て、この地域ならではの、ここにしかないというものをしっかりアピールすること、というふうなこと皆さんがお話していました。

ぜひ、この中で皆さんの活動の発表の中で色々仲間を増やして頂きたいと思います。どうもありがとうございました。



【田端先生】

本当に今日のご苦労様でした。私から2つ申し上げたいと思います。一つ目は最初に渡辺先生からご報告がございました。それに関連してなんですけれども、その中では皆さまももしかしたらグサッと突き刺さるようなものもあったんじゃないかと思えます。私に言わせると鋭い刀で切られるというのは、生刀で叩かれたようなそういう痛みを感じております。

それは何かと言いますと、一つは皆さんの意欲が大事だけれど、それだけではだめなんだということだと思えます。

今日の、ご報告を聞いていて感じたのは、すごい意欲のある方がたくさんおられる、そういった方々が頑張って地域を良くしていきたいという思いがある。だけどその組織をどうしていくんだろうかと思った時に、まだまだ解決しなければいけない課題があるなと感じた所が1点でございます。

2点目なのですが、これは私が担当している分科会の所の特徴かもしれません。第1分科会ですが。様々な多様な主体というのが登場してきたということでございます。一つはもちろんNPOとか、いわゆるボランティアセクター。もうひとつはボランティア、これは特に法人格を持たずに任意団体でのボランティアでもここまでできるんだという活動を見せてくれました。

それから3つ目は自治会、今日、表彰された猪名寺なんかもそうなんですけども、自治会がこういうふうな、自治会の活動が多様化して新しいことをこれだけやろうとしているんだ、という担い手になっている。4つめが株式会社です。株式会社は営利企業ですけども営利的なことをやることによって継続性を持たしていくというようなことが出てきました。もちろん営利企業といっても、コミュニティビジネスとか、ソーシャルビジネスとかいう分野ですけども、そういった意味ですね。

このように多様な主体が地域に関わるようになってきているということの意義は、今後、考えていかなきゃいけないことだなという風に思います。それは何かといいますと組織化の課題です。何かというと、それぞれ組織文化が違います。ボランティアだったらNPOとはまた違います。そしてもちろんソーシャルビジネスやコミュニティビジネスや自治会とも違います。そういったものをどうやって組織化していくのか。今日の最初の渡辺先生のお話、巻き込み方、あれは非常に参考になるなあと思いながら聞いておりました。

各団体の皆さま方には様々な主体があると思います。こういった主体をどうやって巻き込みんでいくのか、今日は巻き込み方の勉強にもなったかなと思います。どうもありがとうございました。



【森重先生】

皆さま大変お疲れ様でした。本音でどこにしようか迷いました。この手のことで、「接戦になりました」と美辞麗句的に言うこともあるのですが、今回は本当に迷いました。30分くらいかかりましたかね。10分の予定の所を30分かけてやりました。

今回は初めてのポスターセッションの試みで、どういう切り口で評価するかということも含めてずいぶん議論しました。今回うちが取れるんと違うかと思っている所もあったと思いますけども、そうでなかったのは全部私のせいにしておいて下さい。申し訳ありません。本当は、本当にたくさん選びたいと思いました。活動をずっと続けておられるという所もありますし、今、田端先生がおっしゃった色んな人を巻き込んでいる所、新しい入り口を見せている所、新しい組織でもって活動を始めている所、それから他団体にはない非常にユニークな活動をしている所、それぞれ皆さん良い所があって、どこにどういうふうな点数をつければいいのか、私達は何を評価すればいいのかとかなり迷いました。

今回最優秀賞に選んだやましろ里山の会さん、それから猪名寺自治会さんもそうですが、その活動が多様な活動を次々に出している部分という所と、猪名寺自治会に関しては、計画を立ててそれを進めておられる所という部分がまちづくりであるということ、それから多様な所に反映させていく「元気」という部分で最終的に最優秀賞と優秀賞とを決めさせて頂きました。

この手の活動で順位をつけること自体がナンセンスと思う所もあるかと思うのですが、賞状をもらって嬉しくないことはないと思いますので、これを機にまた活動をご尽力頂ければと思います。

それから、皆さんの活動が点数が低かったわけではありませぬので、来年もさらに進化させたものをここでご発表頂いて、また交流して頂いて、それぞれが刺激し合いながらこの地域全体、関西元気なまちづくりの観点、もう1個いうのを忘れませぬ。私が残念ながら発表は聞けなかったんですけども、ポスターをずっと見ていて、皆さんの意見を伺っていて、高齢化とか地域の活動をどう持続させていくかが課題だと皆さん挙げられている所が多かったんですけども、実際の写真とか皆さんお話を聞いていると結構学生さんとか小学生とか色々と巻き込んでおられる、関わる機会を作っておられる所、それからそこに住んでおられる以外の人たちの参加する場を作っておられることが、非常に私は印象的でした。

地域づくりというのはそこに住んでいる人たちだけではかなり限界がきているので、外の人によく見せて関わってもらえるか、そういう意味では私自身はまた違う観点で評価したかったんですけど、そういう意味では私自身も大変勉強になりましたし、皆さんもそのあたりは勉強になったのではないかと思います。また来年もこの会があるかと思しますので、また是非、発表されなくても聞きに来るだけでも十分価値があると思いますので、ご参加頂いて交流を深めて頂ければと思います。本日はどうもありがとうございました。

